ISSN 0919-0120
2014.7 №88

豊田市郷土資料館だより

No.88

Toyota City Museum
Of
Local History

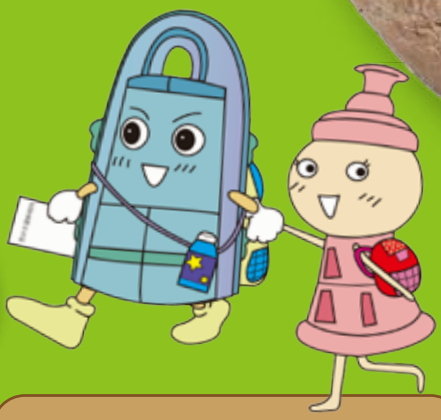
写真（足助城から北の山々を望む）

目　次

・平成26年度企画展 山に生きた縄文人 －『新修豊田市史』の成果から－…2
・平成25年度文化財保護事業報告 ……3
・平成25年度埋蔵文化財調査の概要 ……4
・平成25年度郷土学習スクールサポート事業報告 ……5
・平成25年度豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告 ……6
・平成26年度特別展「自動車を愛した豊田英二ーものづくりのまち豊田市への歩みー」
準備レポート1「クルマのまち　とよた　誕生」……7
・資料館ニュース ……8

展示中（水汲遺跡出土縄文土器）

展示中（大砂遺跡出土縄文土器）



企画展「山に生きた縄文人」
会期 2014年7月5日～8月31日
場所 豊田市郷土資料館（第2展示室）

平成26年度　企画展

山に生きた縄文人　－『新修豊田市史』の成果から－

縄文遺跡の宝庫・豊田市

昨年度刊行された『新修豊田市史資料編考古Ⅰ－旧石器・縄文－』は、市内の旧石器・縄文遺跡の調査・研究成果が約800頁の一書に詰まった大著です。

現在、豊田市には、1,357件の遺跡が存在します。そのうち、約400件（全体の約３割）で、縄文時代遺構・遺物が確認されています。そのうち約360件は旧町村地区の遺跡であり、いかに山間部に縄文時代の遺跡が豊富か実感されます。

実は、豊田市は「知る人ぞ知る」縄文時代の遺跡や文化財が豊富な自治体なのです。例えば、今朝平（けさだいら）遺跡（足助町）や水汲（みずくみ）遺跡（下川口町）など、その出土品が大手出版社の刊行物に掲載されている著名な遺跡や、また指定史跡・有形文化財の多さからも、県内の他自治体と比べ、その資料的な豊富さが実感されます。

三河山間部の地域性

小学校６年生の教科書『新しい社会』（東京書籍）を開くと、縄文時代の遺跡として、三内丸山遺跡（青森県）や蜆塚遺跡（静岡県）が掲載されています。副教材『社会科資料集６年』（教育同人社）を確認すると、後谷遺跡（埼玉県）、南境貝塚（宮城県）などが確認できます。つまり、社会科で教わる大半の縄文遺跡は、一部を除いて、多くが東日本に位置しているのです。この傾向は、遺跡数そのものが東日本に比べ西日本は少ないことがその理由と思われます。遺跡数の「東高西低」現象については、縄文人が食資源として利用可能なサケの河川遡上地域、またはクリ・オニグルミ・トチなどを実らせる落葉広葉樹林の広がりなど、自然環境を根拠として考えられてきました。しかし、これらは現状においてもなお、縄文時代研究の中で未解決の問題の一つとなっています。

さて、列島レベルで言えば上記のような遺跡分布の傾向がありますが、それを踏まえた上で、再度、三河山間部に視点を移してみましょう。遺跡数が少なくないことは先述しましたが、いくつかの点において長野県、岐阜県など、縄文遺跡が多数存在する隣接地域と異なる点が指摘できます。

例えば、棒の先に固定して土掘り具として使用する打製石斧は、東日本の縄文人にとって重要な生活道具の一つで、現在の我々が遺跡を訪れると必ず拾えるほど多数使用されたものです。しかし、それらは三河山間部においては少なく、おそらくは棒のみで土を掘ることが多かったと考えられます。

もう一点気になるのは、遺跡で見つかる住居数の少なさ、つまり集落規模の小ささです。数十軒の住居が数十m、時には100m以上の広がりを有して分布する典型的な縄文集落（環状集落）は、南信州までは多く確認できますが、三河山間部では、そのように高密度で住居が分布する事例は確認されていません。おそらく三河山間部に生きた縄文人は、落葉広葉樹林から得ることができる自然の恵みに適応した、「東日本的な縄文生活の様式」を基礎としていながら、集団の規模や定住性という点において、その枠から逸脱した存在であったと考えられます。

企画展に向けて

今回の展示の狙いは、小学生・中学生、またはその父兄の方々に、豊田市には縄文時代の遺跡が多数あるという事実をまず知ってもらいたい、という思いがあってのことです。またそれが、（ここが一番難しい所なのですが！）教科書で習う縄文時代像と異なる部分が多いことが伝われば、と切実に願っています。私たちの周りにある、最もありふれた文化財こそが考古資料です。そのような都市に育ったという記憶が、末永く見学者の方々の脳裏に残るような展示を目指したいと考えています。　（髙橋健太郎）

企画展「山に生きた縄文人ー新修豊田市史の成果からー」

会期：平成26年7月5日（土）～8月31日（日）９：00～17：00

休館：毎週月曜日（ただし7月21日は開館）

会場：豊田市郷土資料館第2展示室　　**入場料**：無料

今朝平遺跡

平成25年度 文化財保護事業報告

■ 文化財保護事業

1　文化財保護審議会　2回

諮問1件　答申3件

文化財防火デー：猿投神社、六鹿会館、高月院、清寿院

2　伝統的建造物群保存地区保存審議会　2回

3　埋蔵文化財（4頁参照）

4　文化財指定等

・重要文化財指定：旧鈴木家住宅（建造物）
指定年月日：平成25年8月7日（同日市指定解除）

・新規の市指定文化財：龍性院庭園（名勝）、猿投山のカツラ（天然記念物）
指定年月日：平成25年7月25日

・新規の登録有形文化財：「喜楽亭」
登録年月日：平成25年12月24日

・指定解除：たらよう（平成25年11月21日倒木）

5　文化財等保存維持・修理補助事業

・有形民俗文化財保存修理6件（挙母祭南町山車ほか）
・無形民俗文化財保存修理1件（綾渡の夜念仏と盆踊り保存会）
・有形文化財保存修理1件［六字名号掛軸（専休寺）］
・天然記念物保存整備4件（大洞のスギほか）
・有形民俗文化財保存維持16団体（喜多町山車保存会ほか）
・無形民俗文化財保存維持31団体（猿投町棒の手保存会ほか）
・伝統的郷土芸能保存維持20団体（西山万歳ほか）
・伝統的郷土芸能保存修理6団体（足助西町お囃子会ほか）
・郷土の先人顕彰活動5団体（鈴木正三顕彰会ほか）

6　史跡・名勝・建造物等整備・修理

・松平氏遺跡（高月院・松平氏館跡）保存整備ほか2件報告書作成
・豊田大塚古墳覆屋解体・石室調査（継続中）
・龍性院庭園跡建物・文書調査
・松本家長屋門修理工事設計
・史跡等看板更新（鈴木正三遺跡はじめ16件）

7　民俗芸能普及推進

・民俗芸能映像記録（大沼雅楽、雑敷町八柱神社の打ち囃子）

8　その他

・ニホンカモシカ滅失個体処理19件

■ 郷土資料館事業

1　展示・入館者数

平成25年度入館者数　15,178人

・特別展「一弓入魂　とよたの弓文化をさぐる」
1/25～3/9　3,762人

・企画展「館蔵　藤井達吉展　～小原和紙工芸を創った男」
7/20～9/1　2,499 人

・企画展「重要文化財旧鈴木家住宅収蔵品展　あかりの道具」
10/29～12/15　1,827人

・ミニ企画展「郷土資料館のひなまつり」
2/1～3/9　3,351人

・喜楽亭企画展「喜楽亭のひなまつり」
2/23～3/31　1,585人

2　資料調査

・旧鈴木家所蔵民具報告書原稿作成

3　資料収集･複製･修復

・「石神遺跡出土木簡複製」「今朝平村文書」「日下部村文書」「万根村文書」ほか購入
・「大田垣蓮月掛軸」「有栖川熾仁親王掛軸」修復

4　資料貸出件数

・他館・機関への資料貸出（写真含む）130件

5　講座ほか

「こどもの日によろいを着てみよう」「まがたま作り」「史跡めぐり」「特別展講座弓道体験」「ギャラリートーク」など　21講座　869人

6　郷土学習スクールサポート（5頁参照）

7　近代の産業とくらし発見館（6頁参照）

8　その他

・藤岡民俗資料館耐震化等工事
・足助城の木橋修繕

特別展 講座「弓道体験」の様子

平成25年度 埋蔵文化財調査の概要

○有無の照会

住宅建設・宅地造成・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。近年の照会件数は、平成22年度903件、23年度749件、24年度710件でした。平成25年度は1,300件で、前年までに比べてかなり増加しています。これは開発等の増加に加えて、平成25年11月まで文化振興課でも行っていた窓口照会を文化財課に統合したことによる増加も含まれます。この中で247件(前年比+77)が埋蔵文化財包蔵地(遺跡)に該当しました。

○届　出

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。平成25年度は民間開発事業93件(前年比+23)、公共事業45件(前年比＋2)があり、民間事業による届出が大きく増加し、特に高橋地区・挙母地区において顕著でした。

表１　届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	11	5	伊保遺跡・亀首遺跡・花本遺跡
挙母	28	2	金谷城跡・宮口遺跡・挙母城跡
高橋	37	4	高橋遺跡・寺部遺跡
松平	0	0	
高岡	0	3	高山古窯跡
上郷	5	0	上野城跡
藤岡	8	1	新左屋敷遺跡
小原	1	0	栄太郎町馬場遺跡
足助	0	4	足助城跡
下山	0	21	丸山B遺跡・栗挟間遺跡
旭	2	4	落合遺跡・宇内戸遺跡
稲武	1	1	上郷遺跡
計	93	45	

文化財保護法による届出のあった案件の中で、確認調査・試掘調査等を28件実施しました。表２は調査を実施した遺跡の概要です。また、本調査は、住宅建設や区画整理事業に伴って８件実施し、高橋地区に集中しています(表３)。

表２　確認調査・試掘調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因等	調査面積(㎡)
唐九郎窯跡分布調査(平戸橋町)	試掘	3
金谷城跡(金谷町)	宅地造成	15
伊保遺跡(東保見町)	住宅建設	7
寺部遺跡(寺部町)	住宅建設	7
東広瀬経塚(東広瀬町)	住宅建設	9
畝部東町分布調査(畝部東町)	宅地造成	−
寺部遺跡(寺部町)	住宅建設	5
清水口１号窯(西中山町)	住宅建設	60
西山古窯(中田町)	圃場整備	36
高山古窯(中田町)	圃場整備	31
高橋遺跡(上野町)	宅地造成	15
北海道遺跡(森町)	住宅建設	6
宮ノ前遺跡(菅生町)	防火水槽設置	45
小猿投遺跡(今町)	事業用建物建設	3
根川１・２号墳(東保見町)	宅地造成	127
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	9
高橋遺跡(高上)	住宅建設	3
落合遺跡(槙本町)	防火水槽設置	12
七州城跡・常盤町遺跡(常盤町)	住宅建設	5
豊田大塚古墳(河合町)	保存整備	261
龍性院庭園(猿投町)	保存整備	300
長田館跡(司町)	住宅建設	10
小猿投遺跡(今町)	宅地造成	5
梅坪遺跡(東梅坪町)	事業用地造成	24
畝部東町試掘調査	宅地造成	56
四郷地区分布調査	区画整理	−
来姓古窯跡(八草町)	校舎建設	5
御船城跡(御船町)	住宅建設	12

表３　本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積(㎡)	主な遺構
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	91	柱穴
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	17	柱穴
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	22	溝・土坑
高橋遺跡(高上)	住宅建設	22	竪穴建物
高橋遺跡(高上)	住宅建設	11	土坑
栃原遺跡(東山町)	道路建設	110	竪穴建物・溝
金谷城跡(金谷町)	宅地造成	1,650	竪穴建物・土坑・溝
寺部遺跡13A区(上野町・千石町)	区画整理	847	竪穴建物・土坑・井戸

○発掘調査報告書刊行

豊田市埋蔵文化財調査報告書第56集『挙母城(七州城)跡・衣城(金谷城)跡・稲荷塚古墳・内山畑遺跡』、第57集『豊田市西部の山茶碗窯跡』、第58集『足助地区工事立会埋蔵文化財調査報告書』、第59集『五反田遺跡』、第60集『衣城(金谷城)跡・藪下遺跡』、第61集『寺部遺跡Ⅳ』を刊行したほか、『平成24年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』、『豊田市遺跡地図』を作成しました。

平成25年度　郷土学習スクールサポート事業報告

ーのべ190校の小中学校と連携して、のべ12,502人の児童生徒の学習をサポートー

平成20年度から本格的に始めた郷土学習スクールサポート事業も開始から５年が過ぎました。これまで、学校現場の先生方の要望をもとに、サポート内容の充実や新たな学習プログラムの開発、貸出キットの充実、ボランティアの地域学習サポーターによる授業支援など、利用しやすく、充実した事業になるようにすすめてきました。その結果、市内の小中学校を対象に実施する「資料館･遺跡見学、出前授業、資料貸出」の３つのサポートが定着してきました。利用数も、平成19年度には、郷土資料館を見学等で利用した学校・児童生徒数（46校　2,471名）から平成25年度は約５倍になりました。

１　資料館・遺跡見学のサポート

郷土資料館の見学では、常設展示に並ぶ弥生土器や須恵器をはじめ、豊田市内の文化財を見学、身近な古墳や遺跡の見学では、小学校からの要望をもとに、現地で学芸員の説明を聞きながら、学習をすすめました。また、縄文土器や弥生土器、須恵器などを実際に触れる学習を同時に行うことで、体験学習をすすめてきました。実物に触れることにより、子どもたちも目を輝かせて学習することができました。

＜見学サポート＞

２　出前授業・無料貸出によるサポート

小学校３年生の「古い道具と昔のくらし」では、郷土資料館や発見館、藤岡民俗資料館などで様々な古い道具を使って昔のくらしを体験する学習をしてきました。また、地理的に資料館などへ来ることが困難な学校に対しては、持ち運びが可能な古い道具を、学校の学習室などに持ち込んで学習しました。子どもたちは、事前に絵や写真などで学習したものを間近で見たり、触れたり、体験したりすることにより、学習をより深めることができました。その他、検地帳や高札などの古文書を読み解く授業や火縄銃を使った授業など、教師と学芸員が協力して、子どもの興味や関心を高める授業支援を行うことができました。

＜出前授業＞

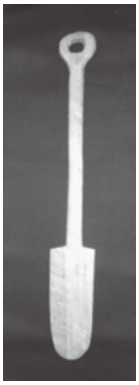
３　地域学習サポーターによる学習支援

平成25年度も40名の登録サポーターによる学習支援により、より充実した郷土学習スクールサポート事業を展開しました。実体験にもとづいたサポーターの話は、説得力があり子どもたちにとっても、たいへんわかりやすいと好評を得ています。また、サポーター研修会を実施し、サポーターの皆さんに見聞を高めていただくとともに、よりよい支援のあり方を追究しました。

＜地域学習サポーターと学芸員による授業＞

４　体験用学習キットの充実

平成25年度は、展示物の複製を教材化することにより、郷土の歴史に関心をもつきっかけにしてほしいと考え、郷土資料館の常設展示物の中から体験学習用に「内行花文鏡」と「花本遺跡出土鋤」の複製を作成しました。今後も郷土学習スクールサポート事業の充実のために、市内の文化財や学校のニーズの多い教材キットや貸し出し資料を増やしていく予定です。



学習指導要領の改訂により、様々な伝統や文化の保護や活用、作業的、体験的な学習や地域の資料館や博物館の活用が重視されています。今後も郷土学習スクールサポート事業の充実を図っていきます。

平成25年度
豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告

郷土資料館の分館「豊田市近代の産業とくらし発見館」（以下、発見館）にて、平成25年度に実施した展示会や講座等の活動を報告します。

【年間来館者数】15,475人

【企画展】３回開催 ※ギャラリートークも随時実施した。

・「発見館まゆまつり2013 - カイコのひみつ - 」
　会期４月23日～６月30日　来館者数2,289人

・「われらの飛行機・挙母号」
　会期７月13日～10月20日　来館者数5,015人

・「古い道具と昔のくらし　明治の発明品」
　会期12月３日～３月９日　来館者数3,753人

【講座等】ものづくり講座

・まゆ花のコサージュ作り
・生糸のペンたて
・三角コプターを作ろう！
・鋳造キーホルダー
・藍の生葉染め（右写真→）
・ミニ屏風作り
・かわいいまゆ雛

ものづくり体験

・春休みものづくり体験「ガラ紡糸のコースターづくり」
・企画展ものづくり体験「まゆストラップ」
・夏休みものづくり体験「風鈴・麦わらぼうし・うちわ」
・冬休みものづくり体験「万華鏡・えと絵馬・羽子板」
・ものづくり体験「干支まゆ人形・午」

写真：えと絵馬（模様は蚕のまゆを使用）

見学会等（主に企画展に併せて開催）

養蚕農家を訪ねて／挙母号ＦＬＩＧＨＴ！／明治の発明品に出会う旅／「ぶらコロモ」

「ぶらコロモ」は、挙母の町中の歴史や文化財等を紹介した地図を片手に町中を散策してみようという事業で、好評を博しています。※随時開催。地図のテーマ内容は季節毎に変更。

その他（参加・協力した事業）

ふれ愛フェスタ2013／とよたものづくりフェスタ2013／出前講座「まゆ雛づくり」in元城小／発見館deかみしばいwith高年大学／名鉄ハイキング　など

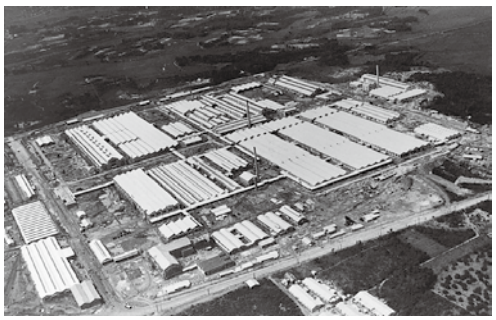
平成26年度も発見館ならではの展示会や講座等を企画します。今後も魅力あふれる発見館の事業にご期待下さい。

平成26年度 特別展「自動車を愛した豊田英二　ーものづくりのまち豊田市への歩みー」準備レポート1

クルマのまち とよた 誕生

会期：平成26年９月27日(土)～11月30日(日)　会場：豊田市郷土資料館

豊田市は、言わずと知れた自動車産業を中心とした企業城下町です。「クルマのまち」として、その名は日本のみならず、世界にも知られています。豊田市の発展は、その「クルマ」とともにあり、切っても切り離すことはできません。



昭和13年 完成した直後の挙母工場全景
トヨタ自動車写真提供

今では自動車産業が大きくクローズアップされる豊田市ですが、トヨタ自動車進出以前には蚕糸業が主要な産業でした。明治維新後、国家目標である富国強兵・殖産興業の名のもと、外貨獲得の手段として脚光を浴びたのが生糸でした。そのため、繭・生糸の増産や桑の植え付けが積極的に奨励され、蚕糸業はこの地の重要産業となっていきました。しかし、昭和４年(1929)のアメリカに端を発した世界恐慌が日本に波及し、日本も底なしの不景気に見舞われることになります。この不景気のあおりを受け、生糸の値段が暴落し、この地の蚕糸業に壊滅的な打撃を与えました。その影響はあまりに大きく、「破れころも(挙母)」と呼ばれるほどに、まちはさびれてしまいました。

まちの行く末が案じられる中、挙母町長中村寿一のもとへ工場用地斡旋の申し入れ話が舞い込みます。それは刈谷の豊田自動織機製作所内に自動車部を設け、国産大衆車の研究開発を始め、後にトヨタ自動車工業株式会社を創業した豊田喜一郎、その人からのものでした。自動車の時代が必ず来ると確信していた喜一郎は、生産のための大規模工場建設の構想を抱き、そのために必要な広大な土地を探し求めていたのです。

候補地として刈谷や横須賀町(現・東海市)などいくつかの地域が挙がりましたが、地価・人件費の高さなどいずれも条件が合わず、まとまることはありませんでした。そんな中、挙母町(現・豊田市)にある論地ヶ原(ろんちがはら)が候補地に選ばれました。挙母町の論地ヶ原は、雑木や雑草が生い茂り耕地には適さない荒れ地のため地価が安く、また、近くには三河鉄道や省営バスが走る県道があることから輸送条件が整っており、加えて主要電力線が近くを通っているため電力の供給も得やすいという、喜一郎が思い描くイメージにぴったりはまる土地でした。

火の消えた挙母のまちをよみがえらせる好機であると考えた寿一は、この申し入れを歓迎し、町議会の同意を得て工場誘致にのり出しました。挙母町は昭和９年(1934)７月、正式に工場誘致委員会を結成し、豊田自動織機製作所との間で「土地売買に関する申合書」を取り交わし、土地買収に取り掛かります。しかし、挙母町を思う寿一たちの決意と期待に反して、土地買収は難航します。当時、論地ヶ原には180人を超える地主がおり、中には価格のつり上げを図る者も出てくるなど多くの問題に直面したからです。土地買収の交渉が進まず、申し合わせの期限超過を理由に、豊田自動織機製作所から契約を取り消す旨の手紙が、寿一に送られてくるほどでした。

いくつもの難題に突き当たりましたが、まちの再生にかける寿一の決意と、誘致委員会の粘り強い努力によって、翌10年(1935)12月におよそ１年半の月日をかけた工場用地の買収が完了しました。この時の買収価格は坪あたり平均30銭でしたが、豊田側には申合書どおり坪20銭で引き渡されました。豊田側は挙母町の厳しい財政状態を考え、工場の操業前に事業税を先払いし、この行為に報いました。挙母町は、これを工場誘致費の差額分に充てることができました。工場用地の買収が完了したことで、自腹を切ってでもこの誘致を成功させたいという寿一の強い決意が、ついに実ったのでした。

それから約３年後の昭和13年(1938)秋、念願の挙母工場が竣工し、本格的な自動車生産が開始されました。挙母工場の操業により、人口が急激に増加した挙母町では、商業が活性化し、工場で働く人々の住宅や通勤のための道路整備などのまちづくりも行われ、「トヨタ景気」と呼ばれるほどの活気が町にあふれました。

この挙母工場の完成を契機とし、挙母町は「クルマのまち」として歩み始めるのです。

(伊藤　圭一)

資料館NEWS

春休みこども週間開催

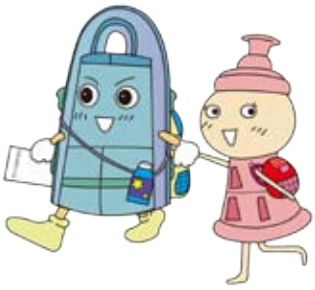
３月21日(金・祝)～４月６日(日)の期間、春休みこども週間を開催しました。来館した子どもたちが、「竹てっぽう」「メンコ」「けん玉」「おはじき」など昔の遊びを体験しました。ワークショップでは、かざり結びでストラップなどを作ったり、貝に絵を描き、貝あわせを作る体験をしたりと、子どもたちが楽しみながら昔の遊びを学ぶ機会となりました。

歴史体験イベント
「君も武将になれる！よろいを着てみよう！」開催

５月３日(土・祝)に子どもたちが鎌倉・戦国時代のよろい(レプリカ)と姫の衣装を試着するイベントを開催しました。子どもたちは少し重い衣装に驚きながらも、ロビーに置かれた金屏風の前でポーズをきめ、写真に写っていました。おりがみでミニ鯉のぼりやかぶとを作るワークショップも行い、ゴールデンウィークの賑やかな１日となりました。

「喜楽亭で祝う端午の節句」開催

４月23日(水)～５月11日(日)の期間、喜楽亭に市民のみなさんから寄贈された五月人形・節句飾りを展示しました。大正時代の趣ある建物の中で、現在では少なくなった段飾りを楽しむ機会となりました。



最新版　豊田市遺跡地図の刊行

豊田市は、平成17年(2005)年４月に、旭町・足助町・稲武町・藤岡町・小原村・下山村の６町村と合併し、県下一の面積918㎢を誇ります。合併に伴い文化財の件数は増加し、遺跡数は1,357件、国・県・市の指定文化財は314件にのぼります。

このたび３月に刊行した『豊田市遺跡地図』は、豊田市内の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)および指定文化財(史跡・名勝・天然記念物)の最新情報を網羅し、３万分の１の縮尺地図で遺跡の分布状況や有無を確認することができます。同書内には、豊田・藤岡・小原・足助・下山・旭・稲武各地区の遺跡等一覧表が掲載され、遺跡名の読み方、遺跡の概要・出土資料などの略記がありますので、お住まいの地区にどのような遺跡が存在しているのかを調べるのに最適です。ぜひ、ご活用下さい。

価格800円(A４判112頁)　※豊田市郷土資料館で購入可能。

利用案内

開館時間　9：00 ～ 17：00
休館日　毎週月曜日（祝祭日は開館）
入場料　無料（特別展開催中は有料）
交　通　名鉄「梅坪駅」より南へ　徒歩10分
　　名鉄「豊田市駅」より北へ　徒歩15分
　　愛知環状線「新豊田駅」より　徒歩15分
　　とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ徒歩５分
駐車場　約20台

■豊田市郷土資料館だより　No.88■

平成26年7月4日発行
編集・発行　豊田市郷土資料館

〒471－0079　豊田市陣中町1－21
☎（0565）32－6561　FAX（0565）34－0095
E-mail：rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL：http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。